



平成30年度 学校関係者評価報告書

評価期間 自：平成30年4月1日
至：平成31年3月31日

2/26/2020
専門学校ICSカレッジオブアーツ

学校区関係者評価委員会(第二回) 会議内容

1, 学校関係者評価委員 (アイウエオ順)

荒木康史	様	(株式会社Green Bridge 代表取締役)
磯貝左千夫	様	(株式会社ジェイボックス 代表取締役)
清水勇樹	様	(株式会社 ディーセント/インテリアマイスター科卒業生)
高本明生	様	(株式会社アークライフ 代表取締役)
張 棋敦	様	(株式会社メック・デザイン・インターナショナル/インテリアデコレーション科卒業生)
吉田栄二	様	(株式会社アクシス/インテリアアーキテクチャ&デザイン科卒業生)
渡邊将貴	様	(株式会社環境計画研究所/インテリアアーキテクチャ&デザイン科Ⅱ部卒業生)

2, 専門学校ICSカレッジオブアーツ学校内関係者

Frederik Albert la Rivière	(校長)
鈴木 敬子	(教務部部长)
田村 栄敏	(教務部副部长)
鄭 清河	(総務部部长)

3, 学校関係者評価対象期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日 (平成30年度)

4, 評価方法

学校関係者評価委員の方々に、事前に学校関係者評価の概要や自己評価報告書を共有差し上げた上で令和2年2月26日(水)に専門学校ICSカレッジオブアーツ502教室にご参集いただきました。学校の現状や課題等について説明差し上げた後、「平成30年度自己評価報告書」の内容について説明し、評価結果についてのご意見を頂きました。

5, 評価結果の公表

評価結果については、専門学校ICSカレッジオブアーツのホームページ内で公表します。

【学校としての教育目標】

建築とインテリア。ここには「ひと・モノ・空間・時間、そして社会・環境」という相互関係の調和が有り、創造があります。これらの関係を理解し、調整し、形づくり、機能させ、統合化するのがICSのデザイン哲学です。その哲学の背景には、目に見えない自然の原理が隠されています。これを常に追求し、人々の生活・文化の発展と充実に寄与する建築・インテリアデザイナーおよび職人を輩出していくことがICSの教育目標です。

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画】

■学生の資格制度へのチャレンジと資格取得促進

従来「商業施設士補」「インテリアコーディネーター」「二級建築士」の受験対策講座を行い学生の資格取得率向上に努めてきました。前年度一級建築士の受験資格認定も受けに続き、新たに夜間の2級建築士受験資格認定（実務0年）も受け、今後より一層学生の資格制度へのチャレンジ精神を育み資格取得率向上に励みます。

■教育の国際連携の充実

従来の英国国立ミドルセックス大学との単位交換制度に加え、台湾にて大葉大学とワークショップも実施し、教育連携の更なる深化を図る等、今まで国際交流促進へ向けた土台固めを進めていきます。

■産学連携活動の充実

産学連携ネットワークの立ち上げ等、さらなる企業との連携強化を図り、学生たち実践的な授業を提供していきます。

地域との連携も強化すべく、徳島県と学生参加のワークショップを行いました。

■学生の就職先の充実化

留学生の受け入れに積極的な企業様の開拓を進めていきます。

■優秀な人材の確保と知名度向上

畳のある空間デザインコンペティション、ICSデザインアワード2018 第1回目を開催し、優秀な人材の確保に力を

自己評価結果、及び学校関係者評価について

1. 教育理念・目的・人材育成像

【自己評価結果】

評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
	やや不適切…2 不適切…1			
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
1-2 学校における職業教育やその他教育指導の特色が示されているか	4	3	2	1
1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を示しているか	4	3	2	1
1-4 学校の理念・目的・育成人材像等が、生徒・関係業界・保護者等へ周知されているか	4	3	2	1
1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
連携を図り、展示会等を通して、広く一般に周知し、認知度の向上を図った

② ①の参考資料・媒体
学校案内・ホームページ

③ 課題と今後の改善方策
引き続き、より一層の周知徹底させる

2. 学校運営

【自己評価結果】

評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
	やや不適切…2 不適切…1			
2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
2-7 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
2-8 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか・有効に機能しているか	4	3	2	1
2-9 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
2-10 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
2-11 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
2-12 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
2-13 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
理事会・評議員会・教職員会議が適宜実施されており、効率的な学校運営を行っている。

② ①の参考資料・媒体
各会議の議事録

③ 課題と今後の改善方策
学校運営についてのより一層の周知徹底を行う。

3, 教育活動

【自己評価結果】

評価項目	【自己評価結果】			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
3-14 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
3-15 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
3-16 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
3-17 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
3-18 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
3-19 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
3-20 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
3-21 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
3-22 成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
3-23 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
3-24 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
3-25 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
3-26 関連分野における先進的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
3-27 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
毎年外部審査員によるカリキュラムや学生の成果物の審査を行っており、教育活動のPDCAを重ねている。

② ①の参考資料・媒体
①の審査時の議事録

③ 課題と今後の改善方策
教員の指導力育成のための能力開発の、より一層の充実化

4, 学修成果

【自己評価結果】

評価項目	【自己評価結果】			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
4-28 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
4-29 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
4-30 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4-31 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
4-32 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
就職ガイダンスや個別相談を通じた、就職活動の早期化への対応と学生の就職意識の向上。

② ①の参考資料・媒体
就職ハンドブック

③ 課題と今後の改善方策
留学生の受け入れに積極的な企業様のより一層の開拓。

5, 学生支援

【自己評価結果】

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
5-33	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-34	学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
5-35	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-36	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
5-37	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-38	学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
5-39	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-40	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-41	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-42	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
5-43	関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
高校と連携したキャリア教育や、在学生への個別相談

② ①の参考資料・媒体
学生ハンドブック

③ 課題と今後の改善方策
卒業生に対する再教育プログラム等の検討

6, 教育環境

【自己評価結果】

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
6-44	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
6-45	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-46	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
進化する技術や機材への対応 (例：CADソフトの更新)、インターン制度、海外研修制度

② ①の参考資料・媒体
インターンマニュアル

③ 課題と今後の改善方策
老朽化した施設設備の改善を図る。教育環境の充実化を図る

7, 学生の募集と受入れ

【自己評価結果】

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
7-47	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2	1
7-48	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
7-49	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
学校訪問や各種媒体を通じた情報提供

② ①の参考資料・媒体
学校案内、ホームページ等

③ 課題と今後の改善方策
建築・インテリアの業界にとどまらない、広く一般へ向けた学校の認知度向上。社会人へ向けた訴求強化

8. 財務

【自己評価結果】

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
	8-50 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
8-51 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
8-52 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
8-53 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
教育活動に見合った予算の策定や、予算と実績の差異分析を実施している

② ①の参考資料・媒体

③ 課題と今後の改善方策

①のプロセスを今後も継続していく

9. 法令等の遵守

【自己評価結果】

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
	9-54 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
9-55 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
9-56 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
9-57 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
外部によるコンプライアンスの遵守チェックを実施

② ①の参考資料・媒体

③ 課題と今後の改善方策

引き続き自己評価委員会・学校関係者評価委員会の充実化を図る

10. 社会貢献・地域貢献

【自己評価結果】

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
	10-58 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2
10-59 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
10-60 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
一般の方も無料で参加可能な特別講義の定期開催、地方自治体と連携をして交流及び地域産業活性化に貢献

② ①の参考資料・媒体

①の講義の案内や成果物

③ 課題と今後の改善方策

教育訓練(公共職業訓練を含む)について検討する

11. 国際交流

【自己評価結果】

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
	11-61 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2
11-62 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
11-63 留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
11-64 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

① 現状・具体的な取り組み等
英国立ミドルセックス大学への単位交換制度・学生編入を利用し、学生1名が編入実績あり、台湾の大葉大学との北京工業大学とのワークショップを台湾にて実施

② ①の参考資料・媒体

学校案内、ホームページ等

③ 課題と今後の改善方策

引き続き現在の各大学との連携深化および、連携先の大学数の開拓

学校関係者評価委員との意見交換

- 末期は社会人、高校生向の広報活動が奏を功し、今期以上の入学者数となることが見込まれている。前回いただいた「留学生の日本語力を向上させるべき」とのご意見を踏まえて、入学後の日本語サポートを更に強化した結果、留学生の日本語能力が向上したと確信している。
- カリキュラムに関して
現在、施工業界では人材不足に伴い、海外に直接社員を募集しに行く会社もあるようだ。また、大工の存在すら知らない子供が増えているとも聞いている。ICSには、未来を担う若者を育てる役割として、インテリアマイスター科のようなコースの存在をもっと社会に向けてアピールしてほしい。さらに、ICSが現在主催しているコンペや、地方自治体と一緒に取り組んでいるワークショップなどを活用し、より多くの人に業界への認知や理解を深めていただくことが、将来的に人材不足の解消につながるのではないだろうか。
また、大工という職業の認知度が低いことは逆に、DIYは流行っている。そのギャップをICSであれば埋められるのではないか。【学校関係者評価委員】

確かに、業界や大工の認知度が低いことは否定できない。過去に卒業制作で住宅の施工に取り組んだ学生も居たが、施工には費用が多くかかることもあり、なかなか難しい。今後は企業との連携で実際の現場施工を実施できないか模索している。【学内関係者】
- 産学連携、社会貢献に関して
安全や補償関連の条件付きで、例えば災害地支援を検討しても良いのではないか。
また、産学連携として、小さな町などと協力しながら改装可能な物件を探し、学生への課題にするのはどうか。
他にも、移転が頻繁な中小企業の事務所をターゲットとし、例えば「社員募集に効果があるオフィス」をテーマにデザイン案を学生が考え、サンプルとして実際に施工するなど検討してはどうか。
こういった内容のものを、サマーセミナーのプロジェクトとして取り組む試みも良いのではないか。【学校関係者評価委員】

実際の案件を学生の課題にする場合、指導教員（職人）の準備、工事の予算管理や責任の所在が曖昧になり実施し難いのが現実である。口
但し、過去にショールームやショップ等の商業施設のコーディネーションや施工を学生が手掛けたことはある。
産学連携の一環として、新しい形で地域貢献として、実施のハードルは高いがトライする価値は十分ある。【学内関係者】

今後も、学校関係者評価委員の皆様には社会の目として定期的にご意見を頂戴していきたい。【学内関係者】